

孫三郎の父・總一郎の祖父

大原孝四郎展

特別展期間 2022年5月17日(火)～5月29日(日)

展示資料

中倉(一)

備中子弟学資貸与規則 明治32年(1899)

中倉(二)

大原孝四郎「ほととぎす句」

大原孝四郎肖像画

倉敷村年寄大原幸三郎宛用状 慶応3年(1867)

白米直間銀渡方判取帳 慶応3年(1867)

節斎遺稿 明治43年(1910)

大原孝四郎宛出世証文 明治19年(1886)

田畑小作取立帳 明治37年(1904)

地子米家賃取立帳 明治37年(1904)

窪屋郡丸持鏡 明治17年(1884)

倉敷紡績所設立御願并定款 明治22年(1889)

株式会社倉敷銀行定款 明治26年(1893)

大原孝四郎宛木山精一書簡 明治34年(1901)

大原孝四郎宛林醇平書簡 明治29年(1896)

内中倉

大日本史 嘉永4年(1851)

春秋左氏伝校本 文化8年(1811)

大原孝四郎短冊

正阿弥勝義金工作品



大原孝四郎略歴

大原孝四郎は、天保4(1833)年に岡山城下丸亀町備中屋藤田家の三男として生まれ、安政5(1858)年、26才で倉敷村児島屋与兵衛(大原家五代目壮平)の養子となった。

孫の總一郎の随筆では、藤田家での孝四郎は、風流を愛する文学青年であったが、大原家の養子となった後は、非常な勤勉家へと変貌したと記されている。

慶応2(1866)年、孝四郎は倉敷村年寄に就任し、村政に携わることとなる。明治15(1882)年、50才で家督を相続し、大原家六代目当主となり、明治21(1888)年には、倉敷紡績所頭取、明治24(1891)年には、倉敷銀行頭取に就任し、近代産業資本家への転身を果たした。

明治37(1904)年に孫三郎へ家督を譲り、その後、倉紡・倉銀からも身を引き、明治43(1910)年、78才で没した。

全ての展示資料を掲載しているものではありません。また、展示資料等は変更する場合があります。